

## 電事連会長 定例会見要旨

(2024年3月15日)

### 【池辺会長挨拶】

私は、今月末をもって電事連会長の職を退任することになりました。本日は、これまでの4年間で少し振り返らせていただきます。なお、お手元に配布している、本日公表の2つの資料にも触れながら、申し上げたいと思います。

### <就任・2050カーボンニュートラル>

私が電事連の会長に就任したのは、今から4年前の2020年3月14日でした。就任後まもなく、菅元首相が、2050年カーボンニュートラルを宣言され、世界的に脱炭素の潮流が進む中で、日本においても大きな転換点になりました。翌年5月には、電事連としても、カーボンニュートラル実現に向けた、基本的な考え方や取り組みの方向性を公表いたしました。そうした中で、第6次エネルギー基本計画が策定されるなど、カーボンニュートラルを目指す機運が、大変高まった時期でありました。

### <ウクライナ侵攻・エネルギー安全保障>

一方、2022年2月に、ロシアによるウクライナ侵攻が勃発すると、世界規模で資源の争奪戦が起こり、燃料価格が高騰するなど、エネルギーを取り巻く状況は一変しました。これは、有事において、エネルギーが戦略物資になったという点で、オイルショックと同質であり、改めて、「エネルギーセキュリティ」は「ナショナルセキュリティ」であることを再認識させられました。

### <電気料金値上げ・需給ひっ迫>

そうした中、燃料価格の高騰による厳しい経営状況を背景に、苦渋の判断として、多くの電力会社が電気料金の値上げを余儀なくされました。また、2022年の3月と6月には、政府から、需給ひっ迫警報や注意報が出されるなど、夏・冬の需給ひっ迫が常態化し、節電や電気の効率的な利用をお願いする局面が続きました。電事連としても、送配電網協議会や電力会社と連携して、全国大での節電等のお願いに尽力するとともに、国においても、電源公募などの追加の供給力対策や、燃料確保の仕組みが

構築されるなど、官民で、安定供給の確保に向け、取り組みを進めてまいりました。

#### <エネルギー政策の進展>

また、安定供給と脱炭素の両立という命題を果たすことの重要性が高まる中で、国においてはGX戦略が進められ、昨年5月にはGX推進法、GX脱炭素電源法が成立しました。その中で、フロントエンドでは原子力の最大限の活用を進める方針が明確になりました。さらに、バックエンドについては、最終処分を国が前面にたって進めることや、廃炉や再処理などについて、国として講ずべき施策が明示されたことは、大変意義のある転換を迎えたと考えております。ただし、原子力の活用を進めるにあたって、何よりも優先すべきは、安全性の追求であります。

#### <原子力安全・トップ議論>

先日、3月11日を迎え、福島第一原子力発電所事故から、今年で丸13年となりました。昨年は、ALPS処理水の海洋放出が開始されるなど、廃炉の貫徹に向けた重要なステップとなりましたが、同様の事故を二度と起こさないとの強い決意の下、リスクを常に意識し、新規制基準への適合に留まることなく、自主的かつ継続的に安全性を向上していくことが肝要です。

本日、私ども事業者と、原子力エネルギー協議会＝ATENA、原子力安全推進協会＝JANSI および電力中央研究所・原子力リスク研究センター＝NRRC のトップが一堂に会して、それぞれの果たすべき役割や新たな取り組みについて議論を行いました。お手元に、本日よりまとめたステートメントを資料1として配布しておりますので、後ほどご覧ください。

今後も、産業界が一丸となり、安全性の向上に努めることで、稼働中の発電所においては、安全・安定運転を継続するとともに、申請中のプラントについては、再稼働の加速化を目指してまいります。

#### <会議体再編・電事連の使命>

一方、昨年には、公正取引委員会からの独占禁止法違反行為の再発防止に関する申し入れや、顧客情報の不正閲覧問題など、大変ご心配をおかけした事案も ありまし

た。独占禁止法については、やはり、疑いを持たれたこと自体を反省すべきであり、お騒がせしたことを、改めてお詫び申し上げます。

これまでにコンプライアンス規定の見直しや接触ルールの策定など、改善を進めてまいりましたが、その対策の一つである電事連の会議体の見直しについても、本日、決定いたしました。お手元に資料 2 として配布しておりますが、本年 4 月から、重要事項に係る議論の大半を担っていた、総合政策委員会を廃止するとともに、全部で 25 あった委員会や協議会を、目的や機能別に 14 の会議体に再編することといたしました。

電事連としては、こうした新たな体制のもとで、電気事業の健全な発展を図り、我が国経済の発展と国民生活の向上に貢献するという使命を果たすために、引き続き、電力の安定供給とカーボンニュートラルの実現の両立に向けて、果敢に取り組んでいく所存です。

#### <能登半島地震への対応>

また、至近では能登半島地震があり、大変多くの被害が発生いたしました。停電については、北陸電力による懸命な作業に加え、災害時連携計画に基づき、業界を挙げて、全国の各電力会社が、迅速に応援に駆け付け、復旧にあたりました。

志賀原子力発電所においては、あれほどの大規模災害の中、「止める・冷やす・閉じ込める」という機能が維持され、発電所全体の安全性が確保されました。外部電源の多重化や電源の多様化など、福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえた、多重防護の取り組みも、有効に機能しました。しかしながら、様々な知見や気づきを踏まえて改善を行うことは大変重要であり、業界として課題の検証作業を進め、今後の取り組みに活かしてまいりたいと思います。

さて、こうして振り返ると、話が尽きないほどに様々なことがあった 4 年間でした。これから、ますます重要な局面を迎えるところではありますが、4 年務めたこのタイミングを一つの節目と捉えまして、バトンを引き継ぐことを決意いたしま

した。

以前の会見で申し上げましたが、私は、電事連会長としての大きな仕事の一つに、業界のスポークスマンとしての役割があると思っております。そうした意味では、エネルギー記者会をはじめメディアの皆さまには、大変お世話になりました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

#### <新会長への期待>

このたび、バトンを引き継ぐ林社長は、皆さまもご存じのとおり、これまでの幅広い業務経験を通じて、電気事業全般に高いご見識をお持ちであり、中部電力社長に就任されて以降、約4年に亘り、持ち前のリーダーシップで経営課題に取り組んでおられます。本日の総合政策委員会では、私から推挙のご提案をさせていただき、満場一致での選出となりました。今後は、業界のリーダーとして、全体を引っ張っていただける方であると、確信しております。

今後のエネルギー業界は、大変重要な局面が続きます。1月の会見で今年の抱負として申し上げましたが、新たなステージに向けて歩を進めていくために、林新会長のもとで、業界を盛り立てていただきたいと思っております。

私自身は、今月末をもって、電事連会長の職を退任することになりますが、引き続き、九州電力社長として、業界の一員として、新会長を支え、協力して、課題解決に取り組んでまいります。

#### 【林新会長挨拶】

ただいまご紹介いただきました、中部電力の林でございます。このたび、電気事業連合会の会長を拝命いたしました。エネルギー記者会をはじめメディアの皆さまには、これからどうぞよろしく願いいたします。

池辺会長は、業界を取り巻く環境が激変する中で、4年という長きにわたり、様々な課題に向き合い、持ち前の行動力とリーダーシップで、業界を引っ張ってこられま

した。これまでのご苦勞とご功績に、改めて敬意を表したいと思ひます。

池辺会長からもお話があつたかと思ひますが、今年はエネルギー業界にとって大変重要な年になると考へております。政策面では、エネルギー基本計画の見直しがございますし、電力システム改革の検証も既に始まつております。将来にわたり、国や人々の暮らしを支える、持続可能なエネルギーや電力システムの構築に向け、実務を担う立場から、しっかりと検討に参加してまいります。また、事業者としても、日々の安定供給はもとより、BWRプラントの再稼働や、六ヶ所再処理工場の竣工など、業界を挙げて、着実に取り組みを進める必要があります。

このような重要な局面で、電事連会長という大役を仰せつかることとなり、責任の重さに身の引き締まる思ひであります。電力各社の社長たちと力を合せて、業界を盛り立て、山積する課題を一つ一つ解決すべく、努めてまいります。そして、電事連の使命でもある、我が国の経済や国民の皆さまの豊かな生活の実現に貢献できるよう、尽力してまいります所存であります。

メディアの皆さまにおかれましても、来月から、どうぞ宜しくお願ひいたします。

以 上